

❖ 平城宮第一次大極殿院大極門(南門)の竣工

本年は平城宮跡が史跡指定100周年となる節目の年にあたります。この節目となる年に、第一次大極殿院南門“大極門”の復原工事が完了しました。復原工事は2017年秋から始まり、今年3月19日に竣工式典が開かれました。

大極門は、平城宮の正門である朱雀門(1998年復原)、第一次大極殿(2010年復原)に続き、平城宮跡の中心区画のなかでは三つ目の主要建物の復原となります。儀式の際には天皇も出御した、奈良時代前半の平城宮の中核である大極殿院にふさわしく、間口約22.1m、奥行約8.8m、高さ約20.0mの入母屋造・重層門に復原されました。

この復原事業の主体は国土交通省ですが、1973年の発掘調査以来、奈文研では建築史学・考古学・文

献史学等の多数の研究者が、調査・研究の成果をもとに考証を重ねてきました。特に大極門の復原案は、発掘調査で検出した基壇や階段の痕跡等の情報をもとに、法隆寺中門の基本構造を参考にして作成しました。また、各所の飾金具や瓦等細部の復原にも、所外の研究者も交えた精緻な検討を繰り返してきました。長年蓄積してきた成果がこの復原大極門には結集しているのです。また、奈文研としては写真撮影等の復原工程記録やそのアーカイブ化にも協力しており、今後も重要なデータの保存・継承に努めていきます。

大極門復原で用いた覆屋は東側に曳屋し、今年度から始まった東楼の復原工事でも使用しています。奈文研として今後の復原事業にも引き続き協力していきます。

(企画調整部 岩戸 晶子)

第一次大極殿院復原事業ホームページ

<https://www.heijo-park.jp/about/fukugen/>



竣工した大極門